
色々な世界を見てみたい(仮)

ピンクの河童

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色んな世界を見てみたい（仮）

【Nコード】

N1988BA

【作者名】

ピンクの河童

【あらすじ】

ある日、神様と出会うことで、色々な世界を巡ることの出来る能力を手に入れた。

これは、その能力を使い色々な世界を見ていく少年？の話し。

更新は不定期です。

気まぐれに投稿していくので、それが駄目な方はバックをお願いします。

描写が足りないだとか、文字の書き方が違うだとか、色々駄目な部分があります。
ご了承ください。

この話しはすでに、幾つかの世界を周ったというのが前提で始まります。

なので最初の始まり方が、意味が分からないと思います。

プロローグ

……突然だが、俺は神様に会った事がある。

何故会ったのかは、分からないが確かに会った。

……テンプレな展開によって、四つの能力と三つの道具を貰ったのだ。

そのうちの一つ。

「世界を渡る能力」を使い色々な漫画やゲーム等の世界に行くことにした俺。

この物語は、そんな俺が織り成す、愛と勇気の物語だ（笑）。

幾つかの世界を見た俺が、次に降り立った世界は、ハンター×ハンターの世界だった。

「……ここは何時の時代だ？」

世界を渡る能力には、あるデメリットがある。

一つ、一度この能力を使うと、二年間はこの能力を使えなくなる。

二つ、渡る世界の時代を選べない。

そう、渡る世界は選べても、時代を選ぶことができないのだ。

「ここはハンター×ハンターの世界なのは確かなんだよな」

目の前には、首を傾げてこちらを警戒している少女と、何故か少女を囲んでいる男が四人。

……まあ、見れば分かるよな。

ナンパか、無理やり連れて行くこうとしているかのどちらかだ。

暫く見ていると、少女の様子に気が付いた右側にいた一人の男が、こちらに振り向き叫ぶ。

「あん？…何だよ、そこのガキ!？」

そのガラガラな声を聞いて、不快な気分になりながらも、ジッとして動かない俺。

すると、男のガラガラな声を聞いた他の三人もこちらを向く。

それでも、動かない俺。

何故動かないか？

目の前の少女を見れば分かる。

後頭部あたりで、一つに纏めている薄い紫の髪。

どこか、冷たい感じのするつり上がった目。

年の頃は、だいたい14歳ぐらいだろうか……。

だけど、見間違える筈がない。

ハンター×ハンターで、俺が一番好きだったキャラなのだから。

ドガッ！

少女を見てフリーズしていた俺は、四人の男達の一人：俺から見て一番手前にいたスキンヘッドの男が近づいているのに気が付かなかった。

そのせいもあり、顔面を思い切り殴られ真後ろにあったコンクリートの壁にぶつかる。

「ハッ！雑魚が……」

スキンヘッドの男が言ったその言葉に、他の三人が笑い声をあげ口々に、スキンヘッドの男を祭り上げるようなことを言う。

ぶつかった壁のところには、埃などがまっっている。

side<絡まれている少女>

目の前にいきなり現れた、黒い長髪の自分より少し年が上くらいの少年。

まるで、空間移動をしたかのようにいきなり現れた。

私は周りにいる雑魚よりも、スキンヘッドの男の向こうにいる少年を警戒する。

何故か？

周りにいる雑魚は、何の力も持たない人間。

だが、新しく現れた少年は、いきなり現れたことを考えておそらく……念能力者だろう。

それにしても何故か、オーラが見えないが絶をしているからなのか？

どんな能力なのか？

少年を見て色々な疑問が浮かぶが、今はどうしようもない。

少年は男達に、何かを言われても心ここにあらずと言わんばかりに、ポーとしている。

ドガッ！

そうこうしているうちに、少年がスキンヘッドの男に殴られ真後ろのコンクリートの壁にぶつかった。

男が近づいて来ているのに何もしない少年に、違和感を覚えたが、見守ることにする。

暫くして、埃などがまっけているのがおさまり、男達が壁の方を見ると、壁が凹んでいるだけでそこに少年がいなかった。

「どっどこ？」

口から小さくもれた、その言葉に返事が返ってくる。

「ん？…君の後ろにいるよ？」

「！！！！」

バツと後ろを振り向くと、先ほどの少年が無傷で立っていた。

念が発動した気配が無かった。

コイツは！？

s i d e o u t

殴り飛ばされた俺は、壁にぶつかった後、「ぬらりひよんの畏れ」を発動させて、男の後ろでこちらを観察している少女の後ろへとまわった。

この世界に来る前に行った、ぬらりひよんの孫の世界で、羽衣狐を倒したぬらりひよんから、複写した。
なかなか便利な能力。

それを使った俺は、少女が発した言葉に返事をする。

「ん？…君の後ろにいるよ？」

冷静な顔をしようとしているが驚きの表情を隠しきれていない為、
見ている面白い。

「……………お前はいつ……………」

少女の言葉を遮って聞こえる四人の男達の声。

どうやって…や、無傷！？だとか似たような言葉。

「はあ……………」

めんどくさい。

どの世界でもいる、くだらない男達に呆れてしまう。

少女に、一言つけて俺は男達に向かって歩き出す。

「めんどくせえ……」

口に出したその一言に、男達はキレて四人で俺に殴りかかってくるが、それをかわさずに向かってくる拳ごと殴り飛ばす。

「ライトニングプラズマ！」

俺がもつ必殺の一撃。

聖闘士聖矢の世界で修得した技の一つ。

その拳は、光の速さをもち対象にたいして、一度に複数回拳を叩き込む。

一般の男達がそれを、防げる筈もなく、先ほどの俺のように壁にめり込んだ。

一応手加減はしたんだけどね。

呆気なく思うも、後ろからの視線を感じて、少女の方を向く。警戒半分、興味半分っていう感じの目でこっちを見ていた。

「よっ！俺は、カイリっていうんだ！君の名前は？」

知っているけど自己紹介は大事だと思うんだ。

まあ……こうして、この世界での初めての出会いがあったのだった。

主人公設定（前書き）

主人公設定です。

分かりづらいかもしれません。

主人公設定

主人公 アイリ（花形 藍里）

年齢 16（肉体年齢）

身長 175

体重 66

容赦 髪は黒い長髪。

目は若干つり上がり気味で色は黒い。

顔は普通よりちょい上。

性格 一度決めると、それを貫き通す性格。

女子供には優しい。

能力 「世界を渡る能力（文字通りの能力。ただし一度使うと二年間は使えなくなったり、渡る時代を選択出来ないなどのデメリットがある。……この話では他の、SSと違い平行世界等を普通の違う世界と表しています）」

「右手で触れた対象の力や能力を複写して自身に付加する能力（これまた文字通りの能力。ただし一つの世界で一つまでしか複写出来ない。……その能力や力のデメリットまで複写する。魔力保有量等も力と表しています）」

「不老不死（老いや、死の概念がない。この力を持つ者が人と交わると、その人も不老不死になってしまう。）」

「肉体操作（自身の肉体の年齢や、形等を操作する能力でデメリットは無い。）」

貰った道具 「魔法球（魔法先生ネギま！に出てくる物。中にはトリコの世界が、広がっているが人は生息していない。完全に食料調達用。）」

「調理道具セット（そのまんま。）」

「????」

以上が貰った能力や道具。

この世界までに追加した能力

「ぬらりひよんの孫の世界で、ぬらりひよんの畏」

「ゼロの使い魔の世界で、モブから風のスクエアクラスの才能（魔法は修得済み。）」

「聖闘士聖矢の世界で、ゴールド聖闘士から、その才能（幾つかの

技を修得した。」

以上。

主人公設定（後書き）

暫くはこのままでいきます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1988ba/>

色々な世界を見てみたい（仮）

2012年1月5日00時45分発行